

陳 情 第 42 号	令 6. 12. 10 受 理
<p>(件 名)</p> <p>本会議・委員会に出席する当局職員の減員を求めることについて</p>	
<p>(陳情の要旨)</p> <p>私たちは、市民の税金で運営される鹿児島市議会が効率的に運営されるべきと強く求める。</p> <p>2024年12月10日の本会議を見ると、45名の市議のほかに47名の職員が出席していた。質疑においては入念な事前の取材を経ていることからイレギュラーは起こりづらく、質疑に対して発言する当局職員は予測が可能である。</p> <p>一方で、そのような予定調和の議会は、本日もインターネット議会中継において寝ている議員か目を閉じて腕組みをしている議員が映っているように緊張感のないものとなっていることも問題ではあるが、鹿児島市議会が全国で話題となった広島県安芸高田市議会のような議会に変わる可能性は低いことから、少なくとも節約した議会とすることを求める。</p> <p>具体的な改善案として、本会議・委員会に出席する当局職員を全員ではなく、発言の可能性がある職員に限ることを提案した場合、一見関係のない質疑であっても部署間の連携が必要となる場合を考えて現状の全員出席が望ましい等の理由から反論されると推察するが、本会議は録画されており、必要が生じた場合に後から倍速再生で確認することも可能である。民間では会議全体の30パーセントがオンラインとなっている。海外に目を向けると70パーセントの会議がオンラインに変わっているとの調査結果もある。</p> <p>については、もう少し民間レベルのコスト意識に改善し、「税金を効率的に運用する鹿児島市議会」を実現するため、本会議・委員会に出席する当局職員を全員ではなく、発言の可能性がある職員に限っていただくよう、賛同する市議が出てくることを切に希望し陳情する。</p>	